

公 開
資 料 3

第 3 2 5 回 幹 事 会
公 開 審 議 事 項

令和4年4月18日

日 本 学 術 会 議

公開審議事項

件名・議案	提案者	資料 (頁)	提案理由等 (※シンポジウム等、後援関係については概要を記載)	説明者	根拠規定等	
Ⅲ 公開審議事項						
1. 委員会関係						
提案 1	(分野別委員会) (1) 運営要綱の一部改正 (新規設置 1 件) (2) 委員会及び分科会委員の決定 (追加 2 件)	(1) 機械工学委員会委員長 (2) 第一部長、第二部長	4-6	(1) 分野別委員会における小委員会の設置に伴い、運営要綱を一部改正する必要があるため。 (2) 分野別委員会における委員及び分科会委員を決定する必要があるため。	(1) 第三部長 (2) 第一部長、第二部長	(1) 会則 27 条 1 項 (2) 内規 18 条
提案 2	(課題別委員会) (1) 設置要綱の一部改正 (新規設置分科会 1 件、小委員会 1 件) (2) 分科会委員の決定 (新規 1 件) (3) 小委員会委員の決定 (新規 1 件)	(1) オープンサイエンスを推進するデータ基盤とその利活用に関する検討委員会委員長 (2) (3) 会長	7-11	「オープンサイエンスを推進するデータ基盤とその利活用に関する検討委員会」に新規の分科会及び小委員会を設置することに伴い、設置要綱の一部を改正するとともに、分科会委員と小委員会委員を決定する必要があるため。	菱田副会長	(1) 会則 27 条 1 項 (2) 内規 18 条
2. 地区会議関係						
提案 3	令和 4 年度各地区会議事業計画を決定すること	科学者委員会委員長	12 別冊 1	日本学術会議地区会議運営要綱第 7 の第 2 項の規定に基づき、各地区会議の事業計画を決定する必要があるため。	望月副会長	地区会議運営要綱第 7 2 項
3. 国際関係						
提案 4	令和 4 年度代表派遣について、実施計画の変更及び派遣者を決定すること	会長	13-14	令和 4 年度代表派遣について、実施計画の変更及び派遣者を決定する必要があるため。	高村副会長	国際学術交流事業に関する内規 19 条 2 項
4. 学術フォーラム及び土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等 【令和 4 年度第 2 四半期】						
提案 5	学術フォーラム「国難級災害を乗り越えるためのレジリエンス確保のあり方」の開催について	土木工学・建築学委員会委員長	15-18	主催：日本学術会議 日時：令和 4 年 7 月 7 日 (木) 午後 場所：日本学術会議講堂とオンラインの併用 ※日本学術会議が開催主体のため、幹事会の決定が必要	-	内規別表第 1
提案 6	学術フォーラム「事故による子どもの傷害を予防する - 子ども中心の新たな予防システムの構築へ」の開催について	臨床医学委員会委員長	19-20	主催：日本学術会議 日時：令和 4 年 7 月 23 日 (土) 午後 場所：オンライン ※日本学術会議が開催主体のため、幹事会の決定が必要	-	内規別表第 1
提案 7	学術フォーラム「国際基礎科学年～持続可能な世界のために」の開催について	会長	21-23	主催：日本学術会議 日時：令和 4 年 7 月 29 日 (金) 12:30～17:30 場所：日本学術会議講堂とオンラインの併用 ※日本学術会議が開催主体のため、幹事会の決定が必要	-	内規別表第 1

提案8	学術フォーラム「地域の課題解決を地球環境課題への挑戦に結びつける超学際研究（仮称）」の開催について	フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会委員長	24-25	主催：日本学術会議 日時：令和4年9月頃 場所：日本学術会議講堂とオンラインの併用 ※日本学術会議が開催主体のため、幹事会の決定が必要	—	内規別表第1
提案9	学術フォーラム「カーボンニュートラルシリーズ第2弾「カーボンニュートラルの実現に向けて」（仮称）」の開催について	会長	26	主催：日本学術会議 日時：令和4年9月頃 場所：日本学術会議講堂又はオンライン ※日本学術会議が開催主体のため、幹事会の決定が必要	—	内規別表第1
提案10	学術フォーラム「コロナ・パンデミックが顕在化させた「働くこと」の諸課題は人口問題にどう影響するか？」の開催について	人口縮小社会における問題解決のための検討委員会委員長	27-28	主催：日本学術会議 日時：令和4年9月2日（金）13:00～16:30 場所：オンライン ※日本学術会議が開催主体のため、幹事会の決定が必要	—	内規別表第1
提案11	学術フォーラム「性差に基づく科学技術イノベーション（仮称）」の開催について	科学者委員会委員長	29-31	主催：日本学術会議 日時：令和4年9月8日（木）13:00～16:30 場所：日本学術会議講堂又はオンライン ※日本学術会議が開催主体のため、幹事会の決定が必要	—	内規別表第1
5. その他のシンポジウム等						
提案12	公開シンポジウム「分子科学研究所所長招聘会議「日本の人材育成を考える」（仮）」の開催について	化学委員会委員長	32-33	主催：日本学術会議化学委員会、化学委員会化学企画分科会 日時：令和4年6月7日（火）13:00～17:00 場所：大学共同利用機関法人自然科学研究機構分子科学研究所、公益社団法人日本化学会戦略企画委員会（ハイブリッド開催） ※第三部承認	—	内規別表第1
提案13	公開シンポジウム「JSNFS, KFN and SCJ Joint Symposium on Nutrition and Nutraceuticals（栄養と栄養補助食品に関する公益社団法人日本栄養・食糧学会、韓国食品栄養科学会、日本学術会議合同シンポジウム）」の開催について	食料科学委員会委員長	34-35	主催：日本学術会議食料科学委員会・農学委員会・健康・生活科学委員会合同IUNS分科会 日時：令和4年6月11日（土）14:40～16:30 場所：武庫川女子大学（ハイブリッド開催） ※第二部承認	—	内規別表第1
提案14	公開ワークショップ「未来社会と学術：若手研究者がさらに若い世代と考える」（仮題）の開催について	若手アカデミー運営分科会委員長	36-39	主催：日本学術会議若手アカデミー及び所属分科会（越境する若手科学者分科会、国際分科会、地域活性化に向けた社会連携分科会（予定））、九州大学（予定） 日時：令和4年6月14日（火）～16日（木）（予定） ※GYA年次総会兼学会期間中の開催 場所：九州大学伊都キャンパス（一部オンライン開催）（※新型コロナウイルス感染拡大の状況によって開催方法を変更）	—	内規別表第1

提案15	公開シンポジウム「アーカイブズ専門職問題の新潮流（第27回史料保存利用問題シンポジウム）」の開催について	史学委員会委員長	40-42	主催：日本学術会議史学委員会、史学委員会歴史資料の保存・管理と公開に関する分科会 日時：令和4年6月25日（土）13：30～17：30 場所：オンライン開催 ※第一部承認	—	内規別表第1
提案16	公開シンポジウム「安全工学シンポジウム2022」の開催について	総合工学委員会委員長、機械工学委員会委員長	43-49	主催：日本学術会議総合工学委員会・機械工学委員会合同工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会 日時：令和4年6月29日（水）～7月1日（金）10:00～18:30 場所：オンライン開催（日本学術会議6-A(1)、6-A(2)会議室から配信予定） ※第三部承認	—	内規別表第1
提案17	公開シンポジウム「第13回基礎法学総合シンポジウム「危機は法を破る」のか？—危機管理における人権制約と権力統制の問題—」の開催について	法学委員会委員長	50-51	主催：日本学術会議法学委員会 日時：令和4年7月23日（土）13：00～18：00 場所：オンライン開催 ※第一部承認	—	内規別表第1
提案18	公開シンポジウム「沿岸環境の変化と人間活動—10年後を見据えた課題と対応—」の開催について	地球惑星科学委員会委員長	52-54	主催：日本学術会議地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会、地球惑星科学委員会SCOR分科会 日時：令和4年9月23日（金・祝）13：00～17：00 場所：オンライン開催 ※第三部承認	—	内規別表第1

6. 後援

提案19	国内会議の後援をすること	会長	55-56	以下について、後援の申請があり、関係する部に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。 ①特定非営利活動法人日本臨床歯周病学会40周年記念大会 ②Japan Open Science Summit 2022 (JOSS2022) ③第11回JACI/GSCシンポジウム ④日本近世文学会創設70周年記念シンポジウム	会長	後援名義使用承認基準3(2)ウ
------	--------------	----	-------	---	----	-----------------

7. その他

	件名	資料(頁)
参考	今後の総会及び幹事会開催予定 今後の幹事会及び総会の日程につきご確認ください。次回幹事会は、5月25日(水)13:30～開催。	57

分野別委員会運営要綱（平成26年8月28日日本学術会議第199回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改 正 後					改 正 前					
別表第1					別表第1					
分野別委員会	分科会等	調査審議事項	構成	設置期間	分野別委員会	分科会等	調査審議事項	構成	設置期間	
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	
機械工学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)	機械工学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)	
	機械工学委員会生産科学分科会	(略)	(略)	(略)		機械工学委員会生産科学分科会	(略)	(略)	(略)	(略)
	機械工学委員会生産科学分科会生産科学構想小委員会	1. 生産科学を中心とした機械工学を基盤とした学術分野、および産業分野の現状や動向、将来展望に関する情報交換の場の形成 2. サステナブルな社会を実現するための生産科学を中心とした機械工学に関するコンセプトと具体的な事例の整理や提案に係る審議に関すること	20名以内の会員又は連携会員若しくは会員又は連携会員以外の者	令和4年4月18日～令和5年9月30日		(新規設置)				
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	

附 則

この決定は、決定の日から施行する。

機械工学委員会生産科学分科会小委員会の設置について

分科会等名：生産科学構想小委員会

1	所属委員会名	機械工学委員会
2	委員の構成	20名以内の会員又は連携会員若しくは会員又は連携会員以外の者
3	設置目的	生産科学分科会ではデジタルレボリューションによる物理的な生産の在り方、価値創造などの上流から下流までの生産プロセスの在り方、ビッグデータの活用方法、サイバー空間とフィジカル空間の関係の在り方、ビジネスモデルなどに関する学術について幅広く議論をしている。また、これらをもとに更にサステナビリティを実現するための検討を行い、最終的に意思の表出としてまとめていくことを目指している。分科会での検討を円滑かつ有意義に行うためには、機械工学、生産科学関連分野の学協会や、当該分野を専門とする研究者からのインプットは必要不可欠である。そこで、小委員会では、連携会員以外の参加者も含めて、事例を示しつつ情報・意見交換を行い、サステナブルな社会の実現に向けて、機械工学、とりわけ生産科学がどのように貢献できるか、どのようにすればサステナブルな社会が実現できるかについて議論する。
4	審議事項	1. 生産科学を中心とした機械工学を基盤とした学術分野、および産業分野の現状や動向、将来展望に関する情報交換の場の形成 2. サステナブルな社会を実現するための生産科学を中心とした機械工学に関するコンセプトと具体的な事例の整理や提案に係る審議に関すること
5	設置期間	令和4年4月18日～令和5年9月30日
6	備考	※新規設置

【分野別委員会】

○委員の決定（追加2件）

（法学委員会生殖補助医療と法分科会）

氏名	所属・職名	備考
窪田 充見	神戸大学大学院法学研究科教授	連携会員

【設置：第302回幹事会（令和2年10月29日）、追加決定後の委員数：14名】

（統合生物学委員会）

氏名	所属・職名	備考
有田 正規	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立遺伝学研究所教授	連携会員
粕谷 英一	九州大学大学院理学研究院准教授	連携会員
諏訪 元	東京大学特任教授	連携会員
西田 治文	中央大学理工学部生命科学科教授	連携会員
村上 哲明	東京都立大学理学研究科教授	連携会員

【設置：常設（細則第10条第2項）、追加決定後の委員数：10名】

オープンサイエンスを推進するデータ基盤とその利活用に関する検討委員会設置要綱（令和2年11月26日日本学術会議第304回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改正後				改正前	
<p>(略)</p> <p><u>(分科会)</u></p> <p><u>第4 委員会に、次の表のとおり分科会を置く。</u></p>				<p>(略)</p> <p><u>(新規設置)</u></p>	
分科会	調査審議事項	構成	設置期限		
オープンサイエンス企画分科会	<p>1. <u>研究機関等において必要となる研究データ管理のための課題の整理と具体的方策</u></p> <p>2. <u>各分野の多様性を踏まえ、今後のデータ駆動型科学の振興のために考慮すべき事項</u></p> <p>3. <u>小委員会での審議結果を踏まえた、親委員会での審議内容の整理・調整に関すること</u></p>	<p>10名以内の会員又は連携会員</p>	<p>設置期間：<u>令和4年4月18日～令和5年9月30日</u></p>		

<p>オープンサイエンス・データ利活用推進小委員会</p>	<p>1. 研究機関等において必要となる研究データ管理のための課題の整理と具体的方策 2. 各分野の多様性を踏まえ、今後のデータ駆動型科学の振興のために考慮すべき事項に関すること</p>	<p>20名以内の会員又は連携会員若しくは会員又は連携会員以外の者</p>	<p>設置期間： 令和4年4月18日～令和5年9月30日</p>	<p>(設置期限) 第4 (略)</p> <p>(庶務) 第5 (略)</p> <p>(雑則) 第6 (略)</p>
<p>(設置期限) 第5 (略)</p> <p>(庶務) 第6 (略)</p> <p>(雑則) 第7 (略)</p>				<p>(設置期限) 第4 (略)</p> <p>(庶務) 第5 (略)</p> <p>(雑則) 第6 (略)</p>

附 則
この決定は、決定の日から施行する。

オープンサイエンスを推進するデータ基盤とその利活用に関する
 検討委員会
 オープンサイエンス企画分科会の設置について

分科会等名：オープンサイエンス企画分科会 _____

1	所属委員会名	オープンサイエンスを推進するデータ基盤とその利活用に関する検討委員会
2	委員の構成	10名以内の会員又は連携会員
3	設置目的	<p>日本学術会議は、学術の成果ならびに、研究データのオープン化・共有化による研究の進展の加速化を図るとともに、研究成果の再現性の向上等を目的に、データ基盤の構築並びにその利活用を検討する課題別委員会を設置している。</p> <p>この課題別委員会では、研究データのポリシーの作成や研究データ管理システムの構築が進められ、大学の研究データに基づくオープンサイエンスの展開を支援するプラットフォームが実現しつつある中、学問分野の特性の違いも考慮しつつ、分野を越えた一般的な手法やルールづくり、社会制度の整備等、データ利活用のための具体的方法の審議が必要となっている。</p> <p>本分科会では、こうした課題について具体的な方策等を、第一線で活躍する外部の研究者や若手等で構成される小委員会で審議した結果を整理し、親委員会で分野横断的に大所高所から審議する議題を整理することを目的とする。</p>
4	審議事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究機関等において必要となる研究データ管理のための課題の整理と具体的方策 2. 各分野の多様性を踏まえ、今後のデータ駆動型科学の振興のために考慮すべき事項 3. 小委員会で審議結果を踏まえた、親委員会で審議内容の整理・調整
5	設置期間	令和4年4月18日～令和4年12月31日
6	備考	※新規設置

オープンサイエンスを推進するデータ基盤とその利活用に関する
検討委員会

オープンサイエンス企画分科会

オープンサイエンス・データ利活用推進小委員会の設置について

小委員会等名：オープンサイエンス・データ利活用推進小委員会

1	所属委員会名	オープンサイエンスを推進するデータ基盤とその利活用に関する検討委員会
2	委員の構成	20名以内の会員又は連携会員若しくは会員又は連携会員以外の者
3	設置目的	<p>日本学術会議は第25期課題別委員会として、オープンサイエンスを推進するデータ基盤とその利活用に関する検討委員会を設置している。</p> <p>当該委員会では、学術の成果のオープン化・共有による研究の進展の加速化、研究データのオープン化による研究成果の再現性の向上等を目的に、データ基盤の構築並びにその利活用について分野横断的な審議を行うこととしているが、今般、内閣府特命担当大臣（科学技術政策担当）より、オープンサイエンス、データ利活用を推進する方策について、当該分野で日本がリーダーシップを発揮するための方向性やそのためにアカデミアと取り組むべき事項も含めて検討を求める審議依頼があった。</p> <p>この審議依頼に対応するため、会員・連携会員だけでなく、第一線で活躍する外部の研究者や若手等で構成される小委員会を設置し、研究データ管理のための具体的方策やデータ駆動型科学の振興のために考慮すべき事項を機動的に審議し、その成果を整理して分科会に報告する。</p>
4	審議事項	<p>1. 研究機関等において必要となる研究データ管理のための課題の整理と具体的方策</p> <p>2. 各分野の多様性を踏まえ、今後のデータ駆動型科学の振興のために考慮すべき事項</p>
5	設置期間	令和4年4月18日～令和4年12月31日
6	備考	※新規設置

【課題別委員会】

○委員の決定（新規2件）

（オープンサイエンス企画分科会）

氏名	所属・職名	備考
溝端 佐登史	京都大学名誉教授、経済学研究所特任教授	第一部会員
武田 洋幸	東京大学執行役・副学長、大学院理学系研究科教授	第二部会員、第二部部長
菱田 公一	明治大学研究・知財戦略機構特任教授	第三部会員、副会長
喜連川 優	情報・システム研究機構国立情報学研究所所長、東京大学特別教授	連携会員

【設置予定：第325回幹事会（令和4年4月18日）、決定後の委員数：5名】

（オープンサイエンス・データ利活用推進小委員会）

氏名	所属・職名	備考
溝端 佐登史	京都大学名誉教授、経済学研究所特任教授	第一部会員
狩野 光伸	岡山大学副理事・学術研究院ヘルスシステム統合科学学域教授	第二部会員
小安 重夫	国立研究開発法人理化学研究所理事	第二部会員
武田 洋幸	東京大学執行役・副学長、大学院理学系研究科教授	第二部会員、第二部部長
菱田 公一	明治大学研究・知財戦略機構特任教授	第三部会員、副会長
喜連川 優	情報・システム研究機構国立情報学研究所所長、東京大学特別教授	連携会員
木部 暢子	大学共同利用機関法人人間文化研究機構長	連携会員
永井 良三	自治医科大学学長	連携会員

【設置予定：第325回幹事会（令和4年4月18日）、決定後の委員数：10名】

令和4年度各地区会議事業計画

令和4年3月15日時点

地区会議名	事業名	開催時期・場所	地区会議事務局
北海道	<ul style="list-style-type: none"> 第1回地区会議運営協議会 第2回地区会議運営協議会 学術講演会 ※第三部と共同開催 サイエンスカフェ（1～2回程度） 地区会議ニュースの発行（No. 53） 	4～5月（北海道大学）※ 開催月未定（北海道大学）※ 8月16日（北海道大学）※ 開催月未定（三省堂書店札幌店等）※ 3月 ※ウェブ開催も含め検討	北海道大学 （研究推進部研究振興企画課）
東北	<ul style="list-style-type: none"> 懇談会及び公開学術講演会 ※地方学術会議との共同主催 地区会議運営協議会 地区会議ニュースの発行（No. 37） 	10月末～11月 （東北大学・ハイブリッド） 2月～3月 （東北大学またはオンライン） 3月	東北大学 （研究推進部研究推進課）
中部	<ul style="list-style-type: none"> 第1回地区会議運営協議会及び学術講演会 地区会議ニュースの発行（No. 152） 第2回地区会議運営協議会及び学術講演会 地区会議ニュースの発行（No. 153） 	7月8日（信州大学） 10月 11～12月（三重大学） 3月	名古屋大学 （研究協力部研究企画課）
近畿	<ul style="list-style-type: none"> 学術講演会 地区会議運営協議会及び学術文化懇談会 地区会議ニュースの発行（No. 32） 	開催月未定（会場未定） 2～3月（会場未定） 3月	京都大学 （研究推進部研究推進課）
中国・四国	<ul style="list-style-type: none"> 学術講演会 第1回地区会議運営協議会 第2回地区会議運営協議会 地区会議ニュースの発行（No. 54） 「学術の動向」への掲載（年1回） 	11月（香川大学・ハイブリッド） 11月（香川大学） 1月以降（広島大学） 3月 （未定）	広島大学 （学術・社会連携室）
九州・沖縄	<ul style="list-style-type: none"> 第1回地区会議運営協議会 第1回科学者懇談会及び学術講演会 第2回地区会議運営協議会 第2回科学者懇談会及び学術講演会 第3回地区会議運営協議会 地区会議ニュースの発行（No. 121） 	5月頃（書面回議） 上半期（沖縄県（予定）） ※琉球大学との共催 9月頃（書面回議） 下半期（佐賀市（予定）） ※佐賀大学との共催 3月頃（書面回議） 3月	九州大学 （研究・産学官連携推進部研究企画課）

令和4年度代表派遣実施計画の変更及び派遣者の決定について

以下のとおり、令和4年度代表派遣実施計画の変更及び派遣者の決定を行う。

	会議名称	会 期	開催地／形式等	派遣候補者 (職名)	内 容
1	国際数学者連合(IMU)総会 及び国際数学者会議 2022 等	7月3日 ～ 7月14日	ヘルシンキ (フィンランド)／ ハイブリッド形式	伊藤 由佳理 第三部会員 (東京大学国際高等研究所カブリ数物 連携宇宙研究機構教授)	・代表派遣の取止め ※第 323 回幹事会(令和4年3月 24日)にて派遣決定 ※本人の都合によるもの
				清水 扇丈 連携会員 (京都大学人間・環境学研究科教授)	・派遣者の決定 ※出席形式検討中
2	生化学グローバルサミット (IUBMB 大会)	7月9日 ～ 7月14日	リスボン (ポルトガル)	本橋 ほづみ 連携会員 (東北大学加齢医学研究所遺伝子発現 制御分野教授)	・派遣者の決定 ※実施計画については第 322 回 幹事会(令和4年2月24日)にて 承認済み。 ※開催形式未定
3	国際自動制御連盟(IFAC)評 議会及び関連会議	7月10日 ～ 7月13日	ロンドン (英国)／ ハイブリッド形式	浅野 一哉 ※ — (JFE テクノリサーチ株式会社フェロー)	・派遣者の決定 ※実施計画については第 322 回 幹事会(令和4年2月24日)にて 承認済み。 ※出席形式検討中
4	国際地理学連合役員会及び IGU 設立 100 周年記念特別 国際地理学会議(IGC)パリ 2022	7月16日 ～ 7月22日	パリ (フランス)	氷見山 幸夫 連携会員 (北海道教育大学名誉教授)	・派遣者の決定 ※実施計画については第 322 回 幹事会(令和4年2月24日)にて 承認済み。 ※開催形式未定

	会議名称	会 期	開催地／ 形式等	派遣候補者 (職名)	内 容
5	国際宇宙空間研究委員会 (COSPAR)総会等	7月16日 ～ 7月24日	アテネ (ギリシャ)／ ハイブリッド形式	中村 昭子 ※ — (神戸大学大学院理学研究科准教授)	・派遣者の決定 ※実施計画については第322回 幹事会(令和4年2月24日)にて 承認済み。 ※出席形式検討中
				藤本 正樹 ※ — (宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究 所教授、副所長)	
6	第22回国際土壌科学会議 (WCSS)	7月25日 ～ 8月9日	グラスゴー (英国)／ ハイブリッド形式	小崎 隆 連携会員 (愛知大学国際コミュニケーション学部 教授、京都大学名誉教授)	・派遣者の決定 ※実施計画については第322回 幹事会(令和4年2月24日)にて 承認済み。 ※出席形式検討中
				波多野 隆介 連携会員 (北海道大学大学院農学研究院特任教 授)	

※の派遣候補者は、特任連携会員に承認されることを条件とする。

○学術フォーラム及び土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等
【令和4年度第2四半期】

<概要>

1. 日本学術会議主催学術フォーラム

- (1) 経費負担を要するものは、原則として年間15件程度
 (2) 経費負担又は職員の人的支援を要するものは、四半期ごとに計4件まで
 (3) 土日祝日開催のものは、四半期ごとに2件まで

○今回提案【令和4年度第2半期】 全7件

	提案番号	テーマ	開催希望日時	開催場所	経費負担	職員の 人的支援
1	提案5	「国難級災害を乗り越えるためのレジリエンス確保のあり方」	令和4年7月7日(木)午後	日本学術会議講堂とオンラインの併用	要	要
2	提案6	「事故による子どもの傷害を予防するー子ども中心の新たな予防システムの構築へ」	令和4年7月23日(土)午後	オンライン	要	要
3	提案7	「国際基礎科学年～持続可能な世界のために」	令和4年7月29日(金)12:30～17:30	日本学術会議講堂とオンラインの併用	要	要
4	提案8	「地域の課題解決を地球環境課題への挑戦に結びつける超学際研究(仮称)」	令和4年9月頃	日本学術会議講堂とオンラインの併用	要	要
5	提案9	「カーボンニュートラルシリーズ第2弾「カーボンニュートラルの実現に向けて」(仮称)」	令和4年9月頃	日本学術会議講堂又はオンライン	要	要

6	提案 10	「コロナ・パンデミックが顕在化させた「働くこと」の諸課題は人口問題にどう影響するか？」	令和4年9月 2日(金) 13:00~16:30	オンライン	要	要
7	提案 11	「性差に基づく科学技術イノベーション (仮称)」	令和4年9月 8日(木) 13:00~16:30	日本学術 会議講堂 又はオン ライン	要	要

(参考)

■今回提案を含めた合計数

1. 学術フォーラム (平日 4 件/土日 4 件/開催曜日未定 2 件) 全 10 件

(内訳) ※現在の 10 件中、10 件は経費又は人的負担要

		第 1 四半期 (4 月～6 月)	第 2 四半期 (7 月～9 月)	第 3 四半期 (10 月～12 月)	第 4 四半期 (1 月～3 月)
学術フォー ラム	(土日)	3	1		
	(平日)		4		
	(開催曜日 未定)		2		
合計		3	7		

日本学術会議主催学術フォーラム
「国難級災害を乗り越えるためのレジリエンス確保のあり方」の開催について
(案)

1. 主 催：日本学術会議

2. 日 時：令和4年7月7日（木）午後

3. 場 所：日本学術会議講堂とオンラインの併用

4. 委員会等の開催：なし

5. 開催趣旨：

21世紀前半に発生が確実視される超巨大災害を乗り越えるために、関連するさまざまな学術分野の知見を統合し、残された時間の中で何をすべきか、発災後に何をすべきかについて、今期中の提言の検討に向けて、学術の見地から国難級災害を乗り越える俯瞰的な戦略と実行可能な具体的方策を考える。

6. 次 第：

1. フォーラムの主旨説明（10分）

林 春男（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人防災科学技術研究所理事長）

2. 各パネリストの論点紹介（10分×10名）

1) レジリエンスを知る

田村 圭子（日本学術会議連携会員、新潟大学危機管理本部危機管理室教授）

2) どんないことが起きるのか

①国難級災害：南海トラフ地震・首都直下地震・富士山噴火に関する最新知見

山岡 耕春（日本学術会議連携会員、名古屋大学環境学研究科教授）

②国難級災害の歴史：安政の南海トラフ地震・江戸地震が与えた影響
杉森 玲子（東京大学史料編纂所教授）

3) どんない備えがなされているのか～ハードとソフトでの維持からスマートへ～

①インフラの高度化：ハードインフラのサービス機能の維持

多々納 裕一（日本学術会議連携会員、京都大学防災研究所社会防

災研究部門教授)

②分野を超えた知の統合によるスマート社会の実現

大西 隆 (日本学術会議連携会員、東京大学名誉教授)

4) 国難級災害を乗り越えるとはどんなことか～こわれない仕組みとは何か

①ウェルビーイング：ひとりひとりがこわれない

江川 新一 (東北大学災害科学国際研究所教授)

②自律分散協調社会：社会のあり方を変える
(調整中)

③プラネタリーヘルス —地球を守ってヒトを守る

渡辺 知保 (日本学術会議連携会員、長崎大学学長特別補佐 (プラネタリー・ヘルス担当)、大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科教授)

5) そのために何をすべきか～柔軟さとしなやかさ～

①Transformative Capacity:心理学/生態学に学ぶ
(調整中)

②Transnational Resilience:コロナに学ぶ
廣木 謙三 (政策研究大学院大学教授)

3. パネルディスカッション (参加者との質疑応答含む)

(80分)

モデレータ：寶 馨 (日本学術会議連携会員、京都大学大学院総合生存学館・教授)

(下線は、日本学術会議関係者)

7. 関係部の承認の有無：第三部承認

日本学術会議主催学術フォーラム
「事故による子どもの傷害を予防する－子ども中心の新たな予防システムの構築
へ」の開催について（案）

1. 主 催：日本学術会議

2. 日 時：令和4年7月23日（土）午後

3. 場 所：オンライン

4. 委員会等の開催：なし

5. 開催趣旨：

事故による子どもの傷害に関するデータ収集について、関連機関で分断されており、疫学的に検討できるデータはほとんどなく、また、予防活動に関しても関連機関で分断されている現状にあり、効果的な施策や定量的な評価ができていない。学校環境、消費者製品などと分断するのではなく、予防効果の受け手である子どもやそのケアラーを中心とした視点に立った、効果がある予防活動を展開するためのシステムを学際的・業際的なアプローチで構築する必要がある。本フォーラムでは、主に14歳以下の非意図的な傷害（殺人や無理心中などの意図的な傷害を含まず）の予防を目的に、現時点で、子どもの傷害に関わっている組織の方々に、子どもの傷害についての対応、現状、課題を述べていただき、子どもの傷害の発生数を減らすことができるシステムはどうあるべきかについて議論する。

なお、本フォーラムを企画する第25期子どもの成育環境分科会は、臨床医学委員会（第二部）・心理学・教育学委員会（第一部）・健康・生活科学委員会（第二部）・環境学委員会（第三部）・土木工学・建築学委員会（第三部）合同の分科会となっており、本フォーラムでの議論も踏まえ、子どもの傷害予防に向けて学際的・業際的なアプローチや体制の必要性に関するメッセージを発出したいと考えている。

6. 次 第：

わが国の子どもの傷害の実態（5分）

山中 龍宏（日本学術会議特任連携会員、緑園こどもクリニック院長）

救急搬送のデータと課題（15分）

東京消防庁（登壇者調整中）

医療機関のデータと課題（15分）

岸部 峻（東京都小児総合医療センター救命救急科）

学校管理下の事故のデータと課題（15分）

森本 晋也（文部科学省総合教育政策局安全教育調査官）

子どもの事故予防への取組（15分）

東京都生活文化局（登壇者調整中）

子どもの事故への取組（15分）

消費者庁（登壇者調整中）

子どもの事故予防地方議員連盟の取り組み（講演時間未定）

矢口 まゆ（町田市議会議員）

地域でのNPOの取り組み（講演時間未定）

出口 貴美子（NPO法人Love & Safety おおむら代表）

キッズデザイン協議会の取り組み（講演時間未定）

（調整中）

DXの取組事例と個人情報の問題（10分）

分科会委員（登壇者調整中）

総合討論 どのようなシステムが必要か（30分）

コーディネーター

山中 龍宏（日本学術会議特任連携会員、緑園こどもクリニック院長）

西田 佳史（日本学術会議特任連携会員、国立大学法人東京工業大学教授）

（下線は、日本学術会議関係者）

7. 関係部の承認の有無：第一～三部承認

日本学術会議主催学術フォーラム
「国際基礎科学年～持続可能な世界のために」の開催について（案）

1. 主 催：日本学術会議

2. 日 時：令和4年7月29日（金）12:30 ～ 17:30

3. 場 所：日本学術会議講堂とオンラインの併用

4. 委員会等の開催：なし

5. 開催趣旨：

2022年は持続的発展のための国際基礎科学年である。日本学術会議は、IYBSSDの国際諮問委員会に参加し、国内でIYBSSDの趣旨を周知する責任を負っている。このシンポジウムでは、持続的発展のための基礎科学の重要性や、科学研究を行う上での規範、イノベーションへのインパクト、グローバルな環境問題解決の必要性、市民参加、市民との対話の重要性等について議論する。

6. 次 第：

[開会の挨拶]

梶田 隆章（日本学術会議会長、東京大学宇宙線研究所教授）

小谷 元子（日本学術会議連携会員、国際学術会議（ISC）次期会長
東北大学理事・副学長）

篠原 弘道（日本経済団体連合会副会長（日本電信電話株式会社取締役会長））

【調整中】

M. Spiro (IYBSSD 国際委員会委員長、IUPAP 会長) ビデオメッセージ
関係省庁挨拶

[全体説明]

「持続的発展のための国際基礎科学年の趣旨について」

野尻 美保子（日本学術会議第三部会員、物理学委員会委員長、高エネルギー加速器研究機構素粒子原子核研究所教授）

○セッション1 「(基礎科学と私たちの暮らし)」

司会

古屋敷 智之 (日本学術会議連携会員、臨床医学委員会脳とこころ分科会委員、神戸大学大学院医学研究科教授)

上村 みどり (日本学術会議連携会員、化学委員会・物理学委員会合同結晶学分科会委員、帝人ファーマ株式会社生物医学総合研究所 上席研究員)

「基礎研究余話：「役に立たない研究」と「役に立つ研究」

田中 啓二 (日本学術会議連携会員、公益財団法人東京都医学総合研究所 理事長・所長)

「(基礎化学の視点)」

藤田 誠 (東京大学大学院工学系研究科 卓越教授)

「基礎科学とイノベーション」

長我部 信行 (株式会社日立製作所コネクティブインダストリーズ事業統括本部 事業戦略統括本部 副統括本部長)

「人工知能が拓くインクルーシブ社会」

長井 志江 (東京大学ニューロインテリジェンス国際研究機構 特任教授)

「科学技術をめぐる事実と規範」

一ノ瀬 正樹 (日本学術会議連携会員、東京大学名誉教授、武蔵野大学教授)

《パネル討論》

モデレーター

滝 順一 (日本経済新聞編集局総合解説センター編集委員)

パネリスト

梶田 隆章、小谷 元子、セッション1の講演者

青木 玲子 (日本学術会議連携会員、経済学委員会委員、持続的発展のための制度設計分科会委員、公正取引委員会委員、一橋大学名誉教授)

民間投資関係者 (洪澤健様に交渉中)

[休憩]

○セッション2 「科学と市民の共創」

司会

酒井 章子(日本学術会議連携会員、統合生物学委員会生態科学分
科会委員、京都大学生態学研究センター教授)

氷見山幸夫(日本学術会議連携会員、地球惑星科学委員会 IGU 分科
会委員、北海道大学名誉教授)

「自省と対話－相互理解のために－」

駒井 章治 (東京国際工科専門職大学工科学部情報工学科教授)

「(世界中の若者と交流して)」

原 有穂 (Friday for future Japan)

「(生物多様性研究からみる地球環境)」

北島 薫(日本学術会議第二部会員、統合生物学委員会委員長、京
都大学農学研究科教授)

「(共感力生かし格差縮める)」

小林 佳世子 (南山大学経済学部准教授)

《パネル討論》

モデレーター

高橋 真理子 (ジャーナリスト、元朝日新聞科学コーディネータ
ー)

パネリスト

セッション1 登壇者+セッション2 講演者複数名

コーディネーター 野尻 美保子 (再掲)

(下線は、日本学術会議関係者)

日本学術会議主催学術フォーラム
「地域の課題解決を地球環境課題への挑戦に結びつける超学際研究（仮称）」
の開催について（案）

1. 主 催：日本学術会議

2. 日 時：令和4年9月頃

3. 場 所：日本学術会議講堂とオンラインの併用

4. 委員会等の開催：あり

5. 開催趣旨：

地球規模課題の解決には、学术界、産業界、行政、市民団体などの多様なステークホルダーとの協働が不可欠であり、協働企画、協働生産、協働発信を行うトランスディシプリナリー研究（超学際研究）の推進が求められるが、その本質は、各地域での課題解決の取組に宿っている。本フォーラムでは、地域の課題解決に取り組んでいる国内外の実践的な超学際研究の好事例を紹介し、それをいかに地球規模課題の解決に資する超学際研究に結び付け、研究の推進や成果創出の加速に結び付けていけるのかについて議論する。また、当該研究分野の将来の発展に向けて研究評価の在り方や人材育成についても意見交換を行う。

6. 次 第：

開会（15分）

はじめに

趣旨説明

パネルディスカッション1 「地域の課題解決へ向けた超学際研究」
（60分）

事例1：（仮）カーボンニュートラルへの取り組みを通じた地域振興

事例2：（仮）貧困地域における熱帯林保全と食料安定供給の両立

パネル討論

休憩（15分）

パネルディスカッション2 「地球規模課題の超学際研究に向けて」
(60分)

事例3：(仮) 地球規模課題に対する実践的な超学際研究は果たして可能か

事例4：(仮) 超学際研究推進のための効果的な研究評価システムの構築に関する実践的研究

パネル討論

まとめと今後の展望 (15分)

コーディネーター：沖 大幹 (日本学術会議第三部幹事)

(下線は、日本学術会議関係者)

日本学術会議主催学術フォーラム
「カーボンニュートラルシリーズ第2弾「カーボンニュートラルの実現に向けて」
(仮称)」の開催について (案)

1. 主 催：日本学術会議
2. 日 時：令和4年9月頃
3. 場 所：日本学術会議講堂又はオンライン
4. 委員会等の開催：なし
5. 開催趣旨：
学術の諸科学の専門知と知の統合化により、2050年カーボンニュートラルの実現に向けた諸課題について、学術の観点から審議し、広く社会にその成果を発信するために開催。
6. 次 第：

コーディネーター 高村 ゆかり (日本学術会議副会長)

(下線は、日本学術会議関係者)

日本学術会議主催学術フォーラム
「コロナ・パンデミックが顕在化させた「働くこと」の諸課題は人口問題にどう影響するか？」の開催について（案）

1. 主 催：日本学術会議

2. 日 時：令和4年9月2日（金）13:00 ～ 16:30

3. 場 所：オンライン

4. 委員会等の開催：なし

5. 開催趣旨：

2019年末に始まったコロナ・パンデミックは、すでに2年以上を経て、いまだ収束しない。コロナ・パンデミックによる人口動態への直接的な影響は今後の分析を待たざるを得ないが、社会内の様々な格差が顕在化することによる間接的な影響が危惧される。中でも大きなものが、そもそも不安定な立場に置かれた人びとの労働状況が、コロナ・パンデミックによって、エッセンシャルワーカーへの過大な労働需要と、サービス関連産業における雇用削減の両面から、いっそう悪化するのではないかという危惧である。本フォーラムでは、「働くこと」の問題を中心に、コロナ・パンデミック以降の社会における人口縮小社会の課題解決に向けて、緊迫する国際情勢や移民問題も視野に入れつつ、多面的な検討を行う。

6. 次 第：

13:00 総合司会・開催趣旨説明

遠藤 薫（日本学術会議連携会員、人口縮小社会における課題解決のための検討委員会委員長、学習院大学法学部政治学科教授）

13:15 講演「コロナ・パンデミックと人口問題」

金子 隆一（日本学術会議連携会員、人口縮小社会における課題解決のための検討委員会副委員長、明治大学政治経済学部特任教授）

13:35 講演「ワークライフバランスと人口問題」

三成 美保（日本学術会議連携会員、奈良女子大学副学長・教授）

13:55 講演「コロナ・パンデミックが明らかにした労働のジェンダー格差」

白波瀬 佐和子（日本学術会議第一部会員、人口縮小社会における

課題解決のための検討委員会委員、東京大学大学院人文社会系研究
科教授)

14:25 パネル・ディスカッション：「コロナ・パンデミック以降の人口縮小
社会における「働く」ということ」

司会

大沢 眞理（日本学術会議連携会員、人口縮小社会における課題解
決のための検討委員会委員、東京大学名誉教授)

パネリスト

伊藤 公雄（日本学術会議連携会員、人口縮小社会における課題解
決のための検討委員会委員、京都産業大学客員教授)

武石 恵美子（日本学術会議連携会員、人口縮小社会における課題
解決のための検討委員会幹事、法政大学キャリアデザイン学部教授)

石原 理（日本学術会議特任連携会員、人口縮小社会における課題
解決のための検討委員会幹事、埼玉医科大学産科婦人科学教授)

馬奈木 俊介（日本学術会議第一部会員、人口縮小社会における課
題解決のための検討委員会委員、九州大学大学院工学研究院都市シ
ステム工学講座教授)

16:00 全体討論

16:20 閉会の挨拶

望月 眞弓（日本学術会議副会長、人口縮小社会における課題解決
のための検討委員会委員、慶應義塾大学名誉教授)

（下線は、日本学術会議関係者）

日本学術会議主催学術フォーラム
「性差に基づく科学技術イノベーション（仮称）」の開催について（案）

1. 主 催：日本学術会議
2. 日 時：令和4年9月8日（木）13：00 ～ 16：30
3. 場 所：日本学術会議講堂またはオンライン
4. 委員会等の開催：なし

5. 開催趣旨：

近年、性差を科学の重要な要因と捉え、研究と科学技術イノベーションの質の向上を目指す動きが欧米で始まり、世界中に展開されるようになってきた。国内においても、「第5次男女共同参画基本計画」及び「第6期科学技術・イノベーション基本計画」でその必要性が記されている。特に、新型コロナウイルス感染症の拡大により性差をはじめとする人の特性に関する問題が大きな課題を生んでいる。新型コロナウイルス感染症の診断で使われるパルスオキシメーターは肌の色によってその感度が異なり、またオンラインの普及とともに一般的に使用されるようになった顔認証は、性別と人種によってその認識率が大きく異なる。これらの問題は、性差をはじめとするあらゆる人の特性を研究開発に取り込む必要性を提示している。このように、性差をめぐるさまざまな観点から研究と科学技術・イノベーションを見直し、あらゆる分野で性差研究の必要性を共有することが求められている。第25期日本学術会議では、男女共同参画分科会と性差に基づく科学技術イノベーションの検討小分科会にて、本テーマに関する議論を蓄積してきたが、市民等多くの関係者を交えた議論と共有が必要である。本フォーラムは、性差研究の提唱者であり人の特性差をあらゆる研究に組み込むことの必要性を訴えてきた Londa Shiebinber 教授の来日に合わせて、彼女の基調講演を行う。また、人文・社会科学、生命科学、理学・工学における性差研究の話題提供を行い、新型コロナウイルス感染症の拡大により顕在化した問題について議論し、科学技術イノベーションの在り方をパネル討論で議論する。

6. 次 第：

【総合司会】

安田 仁奈（日本学術会議連携会員、科学者委員会男女共同参画分科会性差に基づく科学技術イノベーションの検討小分科会会員、宮崎大学農学部准教授）

【開会の挨拶】

望月 眞弓（日本学術会議副会長・第二部会員、科学者委員会男女共同参画分科会委員長、慶應義塾大学名誉教授）

【趣旨説明】

渡辺 美代子（日本学術会議連携会員、科学者委員会男女共同参画分科会委員・同性差に基づく科学技術イノベーションの検討小分科会委員長、国立研究開発法人科学技術振興機構シニアフェロー）

【基調講演】「Gendered Innovations」

Londa Shiebinger（スタンフォード大学ジョン・L・ハインツ科学史教授）

【講演1】「AIにおける公平性（仮）」

上田 修功（日本学術会議連携会員、科学者委員会男女共同参画分科会性差に基づく科学技術イノベーションの検討小分科会委員、日本電信電話株式会社NTTコミュニケーション科学基礎研究所 上田特別研究室長（NTTフェロー））

【講演2】「循環器系の性差と対応（仮）」

下川 宏明（国際医療福祉大学 副大学院長）（仮）

【講演3】「性別統計の必要性（仮）」

河野 銀子（日本学術会議連携会員、科学者委員会男女共同参画分科会性差に基づく科学技術イノベーションの検討小分科会幹事、山形大学学術研究院教授）

【パネルディスカッション】「性差分析はイノベーションを創り出すか（仮）」

ファシリテーター：

渡辺 美代子（再掲）

パネリスト：

上田 修功（再掲）

下川 宏明（再掲）

河野 銀子（再掲）

高瀬 堅吉（日本学術会議連携会員、科学者委員会男女共同参画分科会性差に基づく科学技術イノベーションの検討小分科会幹事、中央大学大学院文学研究科心理学専攻教授）

羽生 祥子（日経XWoman 編集委員）（仮）

コメンテーター：

「人文・社会科学の視点」

伊藤 公雄（日本学術会議連携会員、科学者委員会男女共同参画分科会性差に基づく科学技術イノベーションの検討小分科会委員、京都産業大学現代社会学部客員教授）

「生命科学の視点」

能瀬 さやか（日本学術会議特任連携会員、科学者委員会男女共同参画分科会性差に基づく科学技術イノベーションの検討小分科会委員、東京大学医学部附属病院女性診療科・産科助教）

「理学・工学の視点」

野尻 美保子（日本学術会議第三部会員、科学者委員会男女共同参画分科会委員・同性差に基づく科学技術イノベーションの検討小分科会委員、高エネルギー加速器研究機構素粒子原子核研究所教授）

【閉会の挨拶】

名越 澄子（日本学術会議第二部会員、科学者委員会男女共同参画分科会委員・同性差に基づく科学技術イノベーションの検討小分科会副委員長、埼玉医科大学総合医療センター 消化器・肝臓内科教授）

コーディネーター

渡辺 美代子（再掲）

（下線は、日本学術会議関係者）

公開シンポジウム
「分子科学研究所所長招聘会議「日本の人材育成を考える（仮）」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議化学委員会、化学委員会化学企画分科会
2. 共 催：大学共同利用機関法人自然科学研究機構分子科学研究所、公益社団法人日本化学会戦略企画委員会
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和4年（2022年）6月7日（火）13：00～17：00
5. 場 所：大学共同利用機関法人自然科学研究機構分子科学研究所岡崎コンファレンスセンター（愛知県岡崎市明大寺町字西郷中38）（ハイブリッド開催）
6. 分科会等の開催：開催予定あり
7. 開催趣旨：本会議は、上記のとおり、日本学術会議化学委員会、同委員会化学企画分科会、分子科学研究所及び日本化学会戦略企画委員会の合同開催会議として毎年開催し、化学分野における様々な重要課題を取り上げて議論し、報告、提言をしてきた。今回も、前回に引き続き博士人材について取り上げる。日本の科学技術の低下を防ぐためにも優秀な博士人材の確保は喫緊の課題である。しかし、今まで経済的な支援を含む様々な施策がなされてきたにも関わらず、博士課程の進学率は上がらないままである。博士人材の層を厚くするためには何が必要なのか。また、様々な教育プログラムに企業も参加してきたが、企業が求める博士人材と違っているとの声もある。今までの博士支援を総括するとともに、欧米との博士人材育成の違い、社会に貢献できる博士人材の育成、そして日本特有の就職システムなど、どこに問題があるのかを議論する。
8. 次 第：
13：00 挨拶
渡辺 芳人（日本学術会議連携会員、大学共同利用機関法人自然科学研究機構分子科学研究所所長）
13：15 趣旨説明
茶谷 直人（日本学術会議第三部会員、大阪大学名誉教授）

- 13 : 25 講演「過去 20 年の博士支援の総括」
松尾 泰樹 (内閣府科学技術・イノベーション推進事務局長)
- 14 : 10 講演「私が体感した日本と欧州の博士人材育成の違い」
豊田 良順 (東北大学大学院理学研究科助教)
- 14 : 50 休憩
- 14 : 55 講演「VUCA の時代の企業における博士人財の役割と期待」
高柳 大 (味の素株式会社理事、バイオ・ファイン研究所マテリアル&テクノロ
ジーソリューション研究所長)
- 15 : 30 講演「日本の悪しき就職活動を変えなければ博士人材育成の改革はできない」
菅 裕明 (日本学術会議第三部会員、東京大学大学院理学系研究科教授)
- 16 : 10 総合討論
(司会) 玉田 薫 (日本学術会議第三部会員、九州大学主幹教授・副学長)
(討論参加者) 上記講演者、関根 千津 (日本学術会議第三部会員、株式会社住
化技術情報センター代表取締役社長) (予定)
- 17 : 00 閉会

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

10. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催委員会・分科会委員)

公開シンポジウム

「JSNFS, KFN and SCJ Joint Symposium on Nutrition and Nutraceuticals (栄養と栄養補助食品に関する公益社団法人日本栄養・食糧学会、韓国食品栄養科学会、日本学術会議合同シンポジウム)」

の開催について

1. 主 催：日本学術会議食料科学委員会・農学委員会・健康・生活科学委員会合同 IUNS 分科会
2. 共 催：公益社団法人日本栄養・食糧学会、韓国食品栄養科学会
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和4年（2022年）6月11日（土）14：40～16：30
5. 場 所：武庫川女子大学（兵庫県西宮市池開町6-46）（ハイブリッド開催）
6. 分科会等の開催：開催予定なし
7. 開催趣旨：

国際栄養科学連合（IUNS: International Union of Nutritional Sciences）は、1948年に、栄養科学における研究ならびに学術情報の交換をするということを主な目的として設立された組織であり、約4年に1度、国際栄養学会議（ICN）を開催している。令和3年（2021年）9月にICNを東京で開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、令和4年（2022年）12月に延期した。そこで、令和4年（2022年）東京で開催する22nd IUNS-ICNに向けて、国内外で、栄養に対する関心を高め、人々の健康の増進に寄与することを目的として、公開シンポジウム「JSNFS, KFN and SCJ Joint Symposium on Nutrition and Nutraceuticals」を企画した。

本シンポジウムでは、日本および韓国で活躍している若手栄養科学者に、栄養学分野における最新の知見を含めたご講演をしていただく。日本からの講演者は、いずれも、日本栄養・食糧学会奨励賞受賞者である。本シンポジウムの情報は、IUNSを通じて、世界各国の関連組織に案内をし、世界中から参加できるようにする予定である。

※ JSNFS:Japan Society of Nutrition and Food Science（公益社団法人日本栄養・食糧学会）

KFN:The Korean Society of Food Science and Nutrition（韓国食品栄養科学会）

8. 次 第：（使用言語は英語）

14：40～14：50 開会の挨拶

加藤 久典（日本学術会議特任連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科特任教授、日本栄養・食糧学会会長）

Ryu Ki-Hyung (男性) (Professor, Kongju National University, Korea : 韓国食品
栄養科学会会長)

座長

熊谷 日登美 (日本学術会議第二部会員、日本大学生物資源科学部教授)
Sung-Soo Park (男性) (Professor, Jeju National University, Korea)

14 : 50~15 : 15 「Metabolomic approach for determining potential metabolites
correlated with flavor attributes of different apple cultivars
grown in Korea (韓国で栽培されている様々なリンゴ栽培品種のフレ
ーバー属性と相関する潜在的な代謝物を決定するためのメタボロミク
スアプローチ)」

Jeehye Sung (女性) (Assistant Professor, Andong National University, Korea)

15 : 15~15 : 40 「Studies on the bio-regulatory function of procyanidin from the
viewpoints of the multiple-organs crosstalk and circadian
rhythm (多臓器クロストークと概日リズムの観点からのプロシアニジ
ンの生体調節機能に関する研究)」

山下 陽子 (神戸大学大学院農学研究科生命機能科学専攻准教授)

15 : 40~16 : 05 「Ocular vasculature and inflammation are prevented by grape
polyphenols supplementation (ブドウポリフェノールの補給による
眼の血管系と炎症の予防)」

Jung-Heun Ha (男性) (Assistant Professor, Dankook University, Korea)

16 : 05~16 : 30 「Comparative effects of edible mushrooms on colonic luminal
environment (結腸管腔環境における食用キノコの効果の比較)」

岡崎 由佳子 (藤女子大学人間生活学部人間生活学科教授)

9. 関係部の承認の有無 : 第二部承認

10. 関係する委員会等連絡会議の有無 : 無

(下線の登壇者は、主催委員会委員)

公開ワークショップ

「未来社会と学術：若手研究者がさらに若い世代と考える」（仮題）
の開催について

1. 主 催：日本学術会議若手アカデミー及び所属分科会（越境する若手科学者分科会、国際分科会、地域活性化に向けた社会連携分科会（予定））、九州大学（予定）
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和4年（2022年）6月14日（火）～16日（木）（予定）
※GYA 年次総会兼学会期間中の開催
5. 場 所：九州大学伊都キャンパス（福岡県福岡市西区元岡 744）
※一部オンライン開催
（新型コロナウイルス感染拡大の状況によって開催方法を変更）
6. 分科会等の開催：開催予定なし
7. 開催趣旨：
若手アカデミーでは、真に「若手の代表」として活動するには地域に住まう若手との対話・交流が欠かせないとの視点から、23期より「地方における若手科学者を中心とした学術活動の活性化」事業を実施している。これまで、SDGs、シチズンサイエンス、大学国際化、地域社会と科学の関係、などに関する議論を当事者たる地域において行い、日本学術会議からの提言の発出や「学術の動向」における特集記事などにつなげることで社会への発信を行ってきた。今回、新しい試みとして、これまで対象としてきた若手研究者に加え、さらに若い世代である高校生・大学生・大学院生などをより積極的に巻き込んで行くことを狙って、未来社会をテーマにした対話や議論を行う一連のワークショップを企画した。これを通じ、社会課題や地球規模課題を考える際の「複眼的視点の重要性」や「学術の多様性の重要性」を参加者に実感する機会を提供し、参加者が広い視野で学ぶ意欲をかきた

てることを狙い、同時に、学術への信頼感の醸成、および将来的な学術の活性化につなげることを狙う。

8. 次 第 (予定) :

【令和4年(2022年)6月14日(火)10:20~15:45】

場所：九州大学伊都キャンパス椎木講堂・講義室

テーマ：『高校生・大学生・次世代研究者による英語ディベートワークショップ』

概要：「環境」「ヴァーチャル・リアリティ」「医療」「国際関係」など日常的に話題となるトピックについて、それぞれの専門家を招きつつ、先端の知見をもってしてもすぐに決着のつかない生のトピックについてディベートを行う。さらに、専門家からの解説により新たな視座を提供するとともに、双方向的な議論を合わせて実施し、参加者の学ぶ意欲をかき立てることを目的とする。

次第：

10:20-10:30 開会挨拶・趣旨説明

岸村 頌広 (日本学術会議連携会員、九州大学大学院工学研究院応用化学部門・九州大学分子システム科学センター准教授)

10:30-12:30 セッション1. テーマ別ディベート (参加人数：30名程度(予定))

それぞれのテーマで、高校生・大学生・大学院生、研究者を含むグループに分かれ、英語ディベートを実施。

モデレーター研究者

テーマ a. 「環境」：

森 章 (日本学術会議連携会員、横浜国立大学環境情報研究院教授)

テーマ b. 「ヴァーチャル・リアリティ」：

南澤 孝太 (日本学術会議連携会員、慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科教授)

テーマ c. 「医療」：

狩野 光伸 (日本学術会議第二部会員、岡山大学副理事・学術研究院ヘルスシステム統合科学学域教授)

テーマ d. 「国際関係」：

中野 涼子 (金沢大学人間社会学域教授)

12:30-13:30 休憩

13:30-15:30 セッション2. エキシビジョンディベート

セッション1. の発表者から評価の高いディベーター6名を選抜して、再度ディベートを実施。

モデレーター研究者

テーマ e. 「SDGs」:

Jinhee Kim (女性) (Korean Educational Development Institute)

(予定)

15:30-15:40 全体講評

中野 美香 (福岡工業大学教養力育成センター教授) (予定)

15:40-15:45 閉会挨拶

河野 俊行 (日本学術会議連携会員、九州大学法学研究院教授)

【令和4年(2022年)6月15日(水)12:30~16:00】

場所: オンライン開催

テーマ: 『若手世代で考える30年後の社会: SFプロトタイピングワークショップ』

概要: 福岡市内の高校生及び福岡地区の大学生・大学院生・研究者を交えて、特定の技術などが進化した未来社会を想像しつつ、学術と密接に関わる「30年後の～」についてのストーリーをともに考え、現代にも通じる課題や社会や学術の新たな方向性を見出すことを目的とするワークショップを行う。

全体コーディネーター: 宮本 道人 (科学文化作家、株式会社空想科学顧問、株式会社BIOTOPE SF顧問、株式会社グローバルインパクト未来創出顧問)

次第:

12:30-12:40 開会挨拶・趣旨説明

新福 洋子 (日本学術会議連携会員、広島大学副学長 (国際広報担当) / 広島大学大学院医系科学研究科教授)

12:40-15:50 オンラインワークショップ (参加人数: 30名程度 (予定))

各グループファシリテーター若手アカデミー会員

岸村 顕広 (再掲)、新福 洋子 (再掲) 他調整中

(ジェンダーバランスに注意して選定中)

15:50-16:00 全体講評・閉会挨拶 宮本 道人 (再掲)

【令和4年（2022年）6月16日（木）13:00～15:00】

場所：九州大学伊都キャンパス椎木講堂・大会議室

テーマ：『若手研究者と次世代研究者の対話』

概要：若手アカデミー会員と福岡地区の大学院生により分野を越えた議論を行う。

次第：

13:00-13:05 開会挨拶

新福 洋子（再掲）

13:05-14:00 話題提供

若手アカデミー会員、福岡地区若手研究者からの話題提供（10分×6名）（ジェンダーバランスに注意して選定中）

14:00-14:55 総合討論

同時期に開催予定のGYA年次総会兼学会の議論内容などを参考に、ラウンドテーブル形式で議論を深め、若手世代からのメッセージをまとめる。

14:55-15:00 閉会挨拶

岩崎 渉（日本学術会議連携会員、東京大学大学院新領域創成科学研究科先端生命科学専攻教授）

9. 関係部の承認の有無：若手アカデミーのため該当しない

10. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催委員会（分科会）委員）

公開シンポジウム
「アーカイブズ専門職問題の新潮流（第 27 回史料保存利用問題シンポジウム）」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議史学委員会、史学委員会歴史資料の保存・管理と公開に関する分科会
2. 共 催：日本歴史学協会
3. 後 援：未定
4. 日 時：令和 4 年（2022 年）6 月 25 日（土）13：30 ～ 17：30
5. 場 所：オンライン開催
6. 分科会等の開催：開催予定あり（歴史資料の保存・管理と公開に関する分科会）

7. 開催趣旨：

アーカイブズ専門職をめぐる、新たな潮流が生まれている。国立公文書館によるアーキビスト認証制度が 3 年目に入り、これまでに 247 名の認証アーキビストが誕生した。その一方で、先行していた学習院大学に加えて、大阪大学・島根大学・昭和女子大学・中央大学・東北大学へとアーキビスト教育・養成への取組が広がっている。アーカイブズ専門職をめぐる状況・環境は、大きな節目を迎えているといえる。

日本学術会議は、これまでもアーカイブズ専門職の問題に関して次のような意見表出を行ってきた。

- ・日本学術会議学術基盤情報常置委員会報告「学術資料の管理・保存・活用体制の確立および専門職員の確保とその養成制度の整備について」（平成 15 年（2003 年）6 月 24 日）
- ・日本学術会議史学委員会歴史・考古史資料の情報管理・公開に関する分科会「提言 公文書館法とアーキビスト養成」（平成 20 年（2008 年）8 月 28 日）

昭和 62 年（1987 年）の公文書館法では、第 4 条 2 で「公文書館には…専門職員その他必要な職員を置くものとする。」と規定しているが、附則 2 で「当分の間…第四条第二項の専門職員を置かないことができる。」としている。この附則 2 に依拠して、アーキビスト・専門職が置かれない状況が続いていることの問題性を、日本学術会議は指摘し、この附則 2 を撤廃すべきだという報告・提言を發出してきたのである。

国立公文書館による認証アーキビストが続々と誕生し、日本各地の大学院でアーキビスト教育・養成への取組が広がっている今、アーカイブズ専門職問題に係る現在の課題を共有し、今後の展開につなげる場とすることを目的とし、専門職養成の立場から、認証アーキビストの立場から、認証アーキビスト実現への取組から、それぞれ報告をお願いする。加えて、国立公文書館が実施した全国のアーカイブズへのアンケート調査についての結果報告もお願いする。

8. 次 第：

- 13：30～13：35 開会挨拶：若尾 政希（日本学術会議第一部会員、日本歴史学協会委員長、一橋大学大学院社会学委員会研究科教授）
- 13：35～13：40 趣旨説明：佐藤 孝之（日本歴史学協会史料保存利用特別委員会委員長、東京大学名誉教授）
- 13：40～14：10 第1報告：野口 朋隆（昭和女子大学准教授）・牧野 元紀（昭和女子大学准教授）
「昭和女子大学のアーキビスト養成教育—現状と展望—」
- 14：10～14：40 第2報告：蓮沼 素子（大仙市アーカイブズ副主幹）
「アーキビストの専門性の確立と地位向上にむけた現状と課題」
- 14：40～15：10 第3報告：新井 浩文（日本歴史学協会国立公文書館特別委員会幹事）
「公文書館専門職のこれまでとこれから—認証アーキビストの拡充に向けて—」
- 15：10～15：20 休憩
- 15：20～15：50 第4報告：（国立公文書館職員、調整中）
「国立公文書館によるアンケート調査から（仮）」
- 15：50～16：00 コメント：高埜 利彦（日本学術会議連携会員、学習院大学名誉教授）
- 16：00～17：25 パネルディスカッション
パネリスト：野口 朋隆（昭和女子大学准教授）
牧野 元紀（昭和女子大学准教授）
蓮沼 素子（大仙市アーカイブズ副主幹）
新井 浩文（日本歴史学協会国立公文書館特別委員会幹事）
国立公文書館報告者
- 司 会：大友 一雄（日本学術会議連携会員、人間文化研究機構国文学研究資料館名誉教授、日本歴史学協会国立公文書館特別委員会委員長）
佐藤 孝之（日本歴史学協会史料保存利用特別委員会委員長 東京大学名誉教授）
- 17：25～17：30 閉会挨拶：栗田 禎子（日本学術会議第一部会員、千葉大学大学院人文科学研究科教授）

9. 関係部の承認の有無：第一部承認

10. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催委員会及び分科会委員)

公開シンポジウム
「安全工学シンポジウム 2022」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議総合工学委員会・機械工学委員会合同工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会
2. 共 催：公益社団法人土木学会（幹事学会）、特定非営利活動法人安全工学会、公益社団法人化学工学会、一般社団法人火薬学会、公益社団法人計測自動制御学会、公益社団法人自動車技術会、一般社団法人静電気学会、一般社団法人地域安全学会、公益社団法人低温工学・超電導学会、公益社団法人電気化学会、一般社団法人電気学会、一般社団法人電気設備学会、一般社団法人電子情報通信学会、公益社団法人日本化学会、公益社団法人日本火災学会、一般社団法人日本機械学会、公益社団法人日本技術士会、一般社団法人日本計算工学会、一般社団法人日本建築学会、一般社団法人日本原子力学会、一般社団法人日本高圧力技術協会、一般社団法人日本航空宇宙学会、公益社団法人日本材料学会、日本信頼性学会、公益社団法人日本心理学会、公益社団法人日本船舶海洋工学会、一般社団法人日本鉄鋼協会、一般社団法人日本人間工学会、一般社団法人日本燃焼学会、一般社団法人日本非破壊検査協会、一般社団法人日本溶接協会、一般社団法人日本リスク学会、公益社団法人日本冷凍空調学会（予定）
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和4年（2022年）6月29日（水）～7月1日（金）10：00～18：30
5. 場 所：オンライン開催
（日本学術会議6-A（1）及び6-A（2）会議室から配信予定）
6. 分科会等の開催：開催予定なし
7. 開催趣旨：
わが国における安全に関する学際的なシンポジウムとして日本学術会議主催で40年以上にわたり継続して実施されてきている。毎年幹事学会が順番で担当し、実行委員会を組織しテーマを決めて実施する。2022年度は、第52回として土木学会が幹事学会となり企画・運営を行い、「気候変動を見据えた安全・安心・安定」のテーマのもと開催される。共催学会名にみられるように多分野の研究者の発表の場であり、意見交換の場

ともなっている。異分野間での安全に対する取組の差異、あるいは共通する理念について有意義な意見交換が期待でき、日本学術会議総合工学委員会、総合工学委員会・機械工学委員会合同工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会で進めている「安全目標」、「安心感」、「自動運転」をはじめとする検討成果について広く一般へ発表がなされ、多分野の専門家からの意見集約も期待できる。

8. 次 第：(案)

【6月29日(水) 10:00～12:20、12:50～18:00】

10:00～10:10 開催挨拶

日本学術会議総合工学委員会委員長

小山田 耕二 (日本学術会議第三部会員、京都大学学術情報メディアセンター教授)

10:20～12:00 オーガナイズドセッション

「プロセス安全の推進」

司会：南川 忠男 (公益社団法人化学工学会安全部会)

10:20～12:10 オーガナイズドセッション

「化学物質を取り扱う研究現場におけるリスク」

司会：土橋 律 (東京大学大学院工学系研究科教授)

10:20～12:10 オーガナイズドセッション

「新たな社会状況下における社会安全に関するリスクマネジメントの課題」

司会：野口 和彦 (日本学術会議連携会員、横浜国立大学 IAS リスク共生社会創造センター客員教授)

1) つながることの価値、つながることのリスク

柴山 悦哉 (日本学術会議連携会員、東京大学情報基盤センター教授)

2) 自動運転車の安全性に係る課題と取組動向

谷川 浩 (一般財団法人日本自動車研究所新モビリティ研究部部長)

3) 化学産業におけるリスクアセスメントの問題点と課題

中村 昌允 (東京工業大学大学院環境・社会理工学院特任教授)

4) 原子力発電におけるリスク分析対象の拡大

松岡 猛 (日本学術会議特任連携会員、宇都宮大学地域創生推進機構宇大アカデミー非常勤講師)

5) 社会・環境の変容に伴う新たな火災リスクと課題

山田 常圭 (総務省消防庁消防大学校消防研究センター前所長)

6) 社会変化に対応するリスク手法の課題

野口 和彦 (日本学術会議連携会員、横浜国立大学 IAS リスク共生社会創造センター客員教授)

7) 総合討論

浅間 一 (日本学術会議第三部会員、東京大学大学院工学系研究科教授)

小野 恭子 (日本学術会議連携会員、国立研究開発法人産業技術総合研究所安全科学研究部主任研究員)

鎌田 実 (日本学術会議連携会員、一般財団法人日本自動車研究所代表理事・研究所長、東京大学名誉教授)

永井 正夫 (日本学術会議連携会員、一般財団法人日本自動車研究所・顧問、東京農工大学名誉教授)

向殿 政男 (日本学術会議連携会員、明治大学顧問・名誉教授) 他

10:50~12:20 オーガナイズドセッション

「分野を横断する安全技術」

司会：福田 隆文 (長岡技術科学大学システム安全系教授)

10:50~12:20 オーガナイズドセッション

「災害と防災に関する心理学」

司会：竹村 和久 (早稲田大学文学学術院教授)

10:50~12:20 オーガナイズドセッション

「安全マネジメントの在り方の再考」

司会：藤野 秀則 (福井県立大学経済学部経営学科准教授)

12:50~14:50 オーガナイズドセッション

「土木工学における安全問題」

司会：大幢 勝利 (独立行政法人労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所研究推進・国際センターセンター長)

15:10~17:10 オーガナイズドセッション

「社会安全と AI」

司会：野村 泰稔 (立命館大学理工学部環境都市工学科教授)

15:10~17:10 オーガナイズドセッション

「ウイズコロナ禍での安全体験研修の在り方」

司会：新井 充 (日本学術会議特任連携会員、東京大学名誉教授)

15:10~17:10 オーガナイズドセッション

「デジタル社会における電力需要設備のスマートメンテナンスへの健全移行」

司会：西村 和則 (広島工業大学工学部電気システム工学科教授)

【6月30日(木) 10:00~12:20、12:50~18:30】

10:20~12:20 オーガナイズドセッション

「ものづくり・ひとづくり・ことづくりにおける安全教育の実践例」

司会：中村 瑞穂（職業能力開発総合大学校能力開発院能力開発基礎系准教授）

10:20~12:20 オーガナイズドセッション

「気候変動と安心感」

司会：大倉 典子（日本学術会議第三部会員、芝浦工業大学名誉教授・SIT 総合研究所
特任教授、中央大学大学院理工学研究科客員教授）

1) カーボンニュートラル施策による社会の変化と人々の安心感

辻 佳子（日本学術会議連携会員、東京大学環境安全研究センター教授）

2) 原子力発電関連活動と安心感

松岡 猛（日本学術会議特任連携会員、宇都宮大学地域創生推進機構宇大アカデミー
非常勤講師）

3) 環境対応住宅居住者の暮らしやすさ評価

大倉 典子（日本学術会議第三部会員、芝浦工業大学名誉教授・SIT 総合研究所特任
教授、中央大学大学院理工学研究科客員教授）

4) 安心感モデルの気候変動への適用

庄司 裕子（日本学術会議連携会員、中央大学理工学部教授）

10:50~12:20 オーガナイズドセッション

「環境に配慮した宇宙推進システムの展望」

司会：高橋 賢一（日本大学理工学部航空宇宙工学科教授）

13:00~14:00 特別講演

「気候変動を見据えた脱炭素と風水害対策の可能な技術」

講演者：沖 大幹（日本学術会議第三部会員、東京大学大学院理工学研究科教授）

14:10~16:10 連携パネルディスカッション

「気候変動への適応に向けたこれからの地域社会の構築」

司会 長谷川 潤（さいたま市役所都市局主査）

パネリスト：磯打 千雅子（香川大学創造工学部特命准教授）

加藤 孝明（東京大学生産技術研究所附属都市基盤安全工学国際研究セ
ンター教授）

近藤 誠司（関西大学社会安全学部准教授）

高鍋 剛（株式会社都市環境研究所上席研究員）

首藤 由紀（株式会社社会安全研究所代表取締役所長） 他

14:10～16:10 オーガナイズドセッション

「老朽・遺棄化学兵器廃棄リスク評価・管理の現況と展望（仮題）」

司会：新井 充（日本学術会議特任連携会員、東京大学名誉教授）

1) 有識者からの講演

2) CWD 関係報告

朝比奈 潔（元株式会社神戸製鋼所主監）

3) 事例紹介

4) ヒ素研究レビュー

山内 博（聖マリアンナ医科大学客員教授）

14:10～15:50 オーガナイズドセッション

「高齢エアバッグの安全性と課題について（仮題）」

司会：石川 博敏（認定NPO 法人救急ヘリ病院ネットワーク（HEM-Net）理事）

16:10～18:10 オーガナイズドセッション

「信頼性と危機管理における想定外の事象への取組み」

司会：高橋 亨輔（香川大学創造工学部准教授）

16:10～18:10 オーガナイズドセッション

「カーボンニュートラル施策のリスク検討フレーム」

司会：須田 義大（日本学術会議連携会員、東京大学生産技術研究所教授）

1) 学術会議におけるカーボンニュートラル連絡会議について

高村 ゆかり（日本学術会議第一部会員、東京大学未来ビジョン研究センター教授）

2) カーボンニュートラル施策の影響検討フレーム

野口 和彦（日本学術会議連携会員、横浜国立大学 IAS リスク共生社会創造センター客員教授）

3) 事例1

4) 事例2

16:30～18:30 オーガナイズドセッション

「建設業における労働災害防止の新しい視点」

司会：高橋 明子（独立行政法人労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所リスク管理研究センター主任研究員）

16:30～18:30 オーガナイズドセッション

「機械安全・労働安全・国際標準化・規格化における世界の潮流」

司会：北條 理恵子（長岡技術科学大学技術経営研究科准教授）

【7月1日（金）10:00～12:00、12:50～18:00】

10:00～12:00 オーガナイズドセッション

「安全文化」

司会：小松原 明哲（早稲田大学理工学術院創造理工学部経営システム工学科教授）

12:50～14:50 パネルディスカッション

「新しいモビリティと気候変動・安全・社会デザイン」

司会：大倉 典子（日本学術会議第三部会員、芝浦工業大学名誉教授・SIT 総合研究所
特任教授、中央大学大学院理工学研究科客員教授）

1) 挨拶

永井 正夫（日本学術会議連携会員、一般財団法人日本自動車研究所・顧問、東京農
工大学名誉教授）

2) モビリティのカーボンニュートラル（仮題）

福永 茂和（経済産業省製造産業局自動車課 ITS・自動走行推進室室長）

3) 自動運転 Road to the L4 プロジェクトの紹介

横山 利夫（国立研究開発法人産業技術総合研究所ヒューマンモビリティ研究センタ
ー招聘研究員、経済産業省プロジェクトコーディネーター）

4) 自動運転倫理ガイドライン（仮題）

樋笠 堯士（多摩大学経営情報学部専任講師）

5) 地域交通の現状と展望（仮題）

鎌田 実（日本学術会議連携会員、一般財団法人日本自動車研究所代表理事・研究所
長、東京大学名誉教授）

6) 持続可能な都市デザイン（仮題）

小野 悠（日本学術会議連携会員、豊橋技術科学大学大学院工学研究科准教授）

7) パネルディスカッション

コメンテーター：有本 建男（日本学術会議特任連携会員、政策研究大学院大学客員
教授、科学技術振興機構上席フェロー）

15:00～17:10 パネルディスカッション

「リスク学の歴史・展開・社会実装」

司会：藤井 健吉（花王株式会社研究開発部門研究戦略・企画部部長）

パネリスト 調整中

その他、一般講演9セッションを予定

※今後の状況によっては、公開シンポジウムを中止・延期・開催方法変更する可能性あ
り

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

10. 関係する委員会等連絡会議の有無：カーボンニュートラル（ネットゼロ）に関する連絡会議

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム
「第13回基礎法学総合シンポジウム「危機は法を破る」のか？
－危機管理における人権制約と権力統制の問題－
の開催について

1. 主 催：日本学術会議法学委員会
2. 共 催：基礎法学系学会連合（日本法社会学会、日本法哲学会、比較法学会、法制史学会、比較家族史学会、民主主義科学者協会法律部会）
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和4年（2022年）7月23日（土）13：00～18：00
5. 場 所：オンライン開催
6. 分科会等の開催：開催予定なし
7. 開催趣旨：

パンデミック、戦争等予測不可能な危機が現実到来している。こうした状況下において、法の支配と人権保障を核心とする立憲民主社会が、その根幹を損なうことなく危機管理を実効的に遂行することや、いかにしてそれが可能かどうか検討することは、取り組むべき重要な問題である。この問題について、とくにコロナ禍に焦点を置いて考察することを目的としている。
8. 次 第：

挨拶

13:00 開会挨拶

南野 佳代（日本学術会議第一部会員、京都女子大学法学部教授）

第1部「報告」

◇第1部司会

田口 正樹（日本学術会議連携会員、東京大学大学院法学政治学研究科教授、法制史学会会員）

13:10 『企画趣旨説明』

井上 達夫（東京大学名誉教授、日本法哲学会会員）

- 13:30 『「必要は法を持たないNecessitas non habet legem」
—1720年マルセイユにおけるフランス王権のペスト禍対応を素材と
して—』
藪本 将典（慶應義塾大学法学部准教授、法制史学会会員）
- 13:55 『新型コロナへの対応をめぐる憲法上の議論：ドイツの場合』
毛利 透（京都大学大学院法学研究科教授、比較法学会会員）
- 14:20 『隠す家族、差し出す家族—日本の幕末・明治期における〈予防接種
を打たせる論理〉の転回（仮）』
香西 豊子（佛教大学社会学部教授、比較家族史学会会員）
休憩（15分）（14：45～15：00）
- 第2セッション「報告」
- 15:00 『法的規制厳格化は自由を損なうか？ —社会的同調圧力依存の問題
性（仮）』
福井 康太（大阪大学大学院法学研究科教授、日本法社会学会会員）
- 15:25 『監視と自由 ——権力による監視と権力に対する監視』
松尾 陽（日本学術会議連携会員、名古屋大学大学院法学研究科教
授、日本法哲学会会員）
- 15:50 『専門知の自律性の危機とその再生—学問に対する政策のコントロー
ルと学問の権威主義化のなかで考える』
市橋 克哉（名古屋経済大学法学部特任教授、民主主義科学者協会法
律部会会員）
休憩（20分）（16：15～16：35）
- 第2部「総合討論」
- ◇第2部司会 井上 達夫（東京大学名誉教授）
大西 楠テア（専修大学法学部教授、比較法学会会員）
- 16:35 総合討論
閉会挨拶
- 17:50 亀本 洋（日本学術会議第一部会員、明治大学法学部教授）

9. 関係部の承認の有無：第一部承認

10. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催委員会（分科会）委員）

公開シンポジウム
「沿岸環境の変化と人間活動－10年後を見据えた課題と対応－」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会、地球惑星科学委員会 SCOR 分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：公益社団法人日本地球惑星科学連合、公益社団法人日本水産学会、日本海洋学会、日本沿岸域学会、日本海洋政策学会、国立研究開発法人海洋研究開発機構、地理学連携機構、公益財団法人笹川平和財団海洋政策研究所
4. 日 時：令和4年（2022年）9月23日（金・祝日）13：00～17：00
5. 場 所：オンライン開催
6. 分科会等の開催：未定
7. 開催趣旨：

人間の活動の影響が大気海洋および陸域を温暖化させてきたことに疑う余地はないという気候変動に関する政府間パネル（IPCC）第6次報告が示された。海洋について、人間が最も身近に感じ生活と密接に関係する沿岸域における環境変化とその対応、そしてその目指す将来を「国連海洋科学の10年（2021-2030）」の挑戦課題と関連づけて展望し、幅広く議論する予定である。
8. 次 第：

総合司会：植松 光夫（日本学術会議連携会員、埼玉県環境科学国際センター（CESS）総長、東京大学名誉教授）

13:00－13:10 開会挨拶：
高村 ゆかり（日本学術会議副会長、東京大学未来ビジョン研究センター教授）

13:10－13:15 趣旨説明：
山形 俊男（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人海洋研究開発機構アプリケーションラボ特任上席研究員、東京大学名誉教授）

13:15－13:25 ビデオメッセージ：
Nadia PINARDI（CoastPredict 議長、ボローニャ大学教授）

13:25-13:55 基調講演：

「複合環境ストレス下にあるコーラルトライアングル沿岸生態系の保全戦略」
灘岡 和夫（東京工業大学環境・社会理工学院特任教授）

13:55-14:45 セッション1 沿岸域で顕在化する課題：

司会：角田 智彦（公益財団法人笹川平和財団海洋政策研究所主任研究員）

・海洋プラスチック問題：

保坂 直紀（東京大学大学院新領域創成科学研究科特任教授）

・沿岸域の富栄養化と酸性化：

小埜 恒夫（国立研究開発法人水産研究・教育機構主幹研究員）

・沿岸域を学びたい～テレビ局の試み～：

黒崎 太郎（日本テレビ放送網株式会社取締役執行役員）

・沿岸漁業のスマートセンシング：

西川 悠（国立研究開発法人海洋研究開発機構研究員）

14:45-15:00 休憩

15:00-16:00 セッション2 課題解決に向けて：

司会：角田 智彦（公益財団法人笹川平和財団海洋政策研究所主任研究員）

・グリーンインフラによる沿岸防災：

田井 明（日本学術会議連携会員、九州大学大学院工学研究院環境社会部門准教授）

・持続可能な沿岸海域：

張 勁（日本学術会議連携会員、富山大学学術研究部理学系教授）

・沿岸域の持続可能な利用と保全：

脇田 和美（東海大学海洋学部海洋文明学科教授）

・沿岸資源と地域コミュニティ：

杉本 あおい（国立研究開発法人水産研究・教育機構研究員）

・海洋科学の10年と海洋教育：

阪口 秀（公益財団法人笹川平和財団海洋政策研究所長）

16:00-16:55 総合討論：

モデレーター：川口 慎介（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人海洋研究開発機構地球環境部門主任研究員）

パネリスト：講演者全員

16:55-17:00 閉会挨拶：

春山 成子（日本学術会議第三部会員、三重大学名誉教授）

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

10. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

○国内会議の後援（4件）

以下について、後援の申請があり、関係する部に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。

1. 特定非営利活動法人日本臨床歯周病学会 40 周年記念大会

主催：特定非営利活動法人日本臨床歯周病学会

期間：令和4年7月30日（土）、31日（日）

場所：パシフィコ横浜（一部オンライン配信予定）

参加予定者数：約2,000名

申請者：特定非営利活動法人日本臨床歯周病学会 理事長 高井 康博

審議付託先：第二部

審議付託結果：第二部 承認

2. Japan Open Science Summit 2022 (JOSS2022)

主催：大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立情報学研究所

国立研究開発法人科学技術振興機構

国立研究開発法人物質・材料研究機構

文部科学省科学技術・学術政策研究所

国立研究開発法人情報通信研究機構

一般社団法人学術資源リポジトリ協議会

情報知識学会

期間：令和4年6月6日（月）～6月10日（金）10:00～19:30

場所：オンライン開催

参加予定者数：約60～250名（セッションごとの人数）

申請者：情報知識学会 会長 原田 隆史

審議付託先：第三部

審議付託結果：第三部 承認

3. 第11回 JACI/GSC シンポジウム

主催：公益社団法人新化学技術推進協会

期間：令和4年6月15日（水）～6月16日（木）

場所：オンライン開催

参加予定者数：約700名

申請者：公益社団法人新化学技術推進協会 会長 十倉 雅和

審議付託先：第三部

審議付託結果：第三部 承認

4. 日本近世文学会創設 70 周年記念シンポジウム

主催：日本近世文学会

期間：令和 4 年 6 月 11 日（土）13:40～16:40

場所：中京大学（対面・オンライン併用開催。新型コロナウイルスの感染状況によっては、完全オンライン開催に変更する可能性あり。）

参加予定者数：約 250 名（対面約 100 名、オンライン約 150 名）

申請者：日本近世文学会 事務局代表 柳沢 昌紀

審議付託先：第一部

審議付託結果：第一部 承認

○今後の予定

●幹事会

第326回幹事会	令和4年	5月25日(水)	13:30から
第327回幹事会	令和4年	6月29日(水)	13:30から
第328回幹事会	令和4年	7月27日(水)	13:30から
第329回幹事会	令和4年	8月30日(火)	13:30から
第330回幹事会	令和4年	9月28日(水)	13:30から
第331回幹事会	令和4年	10月26日(水)	13:30から
第332回幹事会	令和4年	11月28日(月)	13:30から
第333回幹事会	令和4年	12月21日(水)	13:30から

以降の幹事会日程は追って調整

●総会

第184回総会	令和4年4月18日(月)～20日(水)
第185回総会	令和4年10月24日(月)～26日(水)